

2025 年 5 月 15 日

免疫チェックポイント阻害剤および抗癌剤治療が無効であった腎盂癌に対して 免疫細胞療法が著効した症例報告論文が学術誌『癌と化学療法』に掲載されました。

医療法人社団混志会 瀬田クリニック東京では、免疫チェックポイント阻害剤および抗癌剤治療が無効であった腎盂癌に対して免疫細胞治療が著効した症例についてまとめた症例報告論文(*1)が、学術誌『癌と化学療法』に掲載されましたのでお知らせいたします。

免疫チェックポイント阻害剤 (ICI) は、現在様々な悪性腫瘍に用いられていますが有効性は限定的であり、また不応性になった場合、他に有効な免疫治療はないのが現状です。今回、われわれは、抗癌剤や ICI が不応になった腎盂癌症例に対し、免疫細胞治療(α β T 細胞療法)を行い、寛解に至った症例を経験したため、報告しました。

[今回の報告内容]

- 左腎盂癌と診断された 70 代の女性で、肝転移や多発肺転移を認め手術適応がなく、化学療法後に一時的に改善が認められたものの腎盂腫瘍は増大、複数の転移巣が出現し、化学療法は中止となりました。引き続き ICI を実施しましたが、腫瘍の増大を認めたため、中止となりました。
- 2021 年 9 月に当院を紹介され受診、免疫機能検査にて T 細胞などの減少を認めたため、 α β T 細胞療法を開始しました。2 週間間隔で 4 回投与後の 2021 年 11 月の CT では肝転移巣や腎盂の腫瘍も縮小が認められ、部分寛解と判定されました。
- その後、計 7 回の α β T 細胞療法を実施し、2022 年の 2 月の CT ではさらに腫瘍は縮小し、同年 6 月の時点で画像上はほとんど腫瘍が消失した状態となりました。

ICI 無効例では、免疫細胞治療などのさらなる免疫治療が行われることはほとんどありませんが、本症例のように ICI 無効となった場合でも、免疫細胞治療を行うことにより、著効する可能性が考えられました。

現在、瀬田クリニックグループでは、ICI 治療後の方を対象に免疫細胞療法(アルファ・ベータ T 細胞療法)の忍容性(安全性)および有効性を確認する臨床研究を実施しています。
詳細は下記よりご覧いただけます。

<https://www.j-immunother.com/research01>

瀬田クリニックグループは今後も、臨床現場で得た最新の知見や研究結果等を速やかに治療に応用するとともに、研究成果に係る情報発信を継続することで、がん免疫細胞治療の発展に貢献してまいります。

以上

本件に関するお問い合わせ:

医療法人社団 滉志会 法人本部

東京都千代田区神田駿河台 2-1-45 ニュー駿河台 ビル 3F

TEL: 03-5860-2393

URL: <http://www.j-immunother.com/>

Email: info@j-immunother.com

(*1) 免疫チェックポイント阻害剤および抗癌剤治療が無効であった腎盂癌に対して免疫細胞療法が著効した 1 例

【 瀬田クリニックグループについて 】

1999年3月、免疫細胞治療の専門医療機関として「瀬田クリニック」(現:瀬田クリニック東京(東京都千代田区))を開院以来、瀬田クリニックグループ全体で24,000名を超える患者さんに治療を提供しています(2025年4月現在)。2009年に設置した臨床研究センター(現:臨床研究・治験センター)では、開院以来の治療実績から抽出した臨床データの解析に加え、大学病院、地域中核医療機関等との共同臨床研究を行い、Evidenceの強化、治療効果の更なる向上に取り組んでいます。